

疼痛スケールの比較

現行のスケール（主観的疼痛スケール）

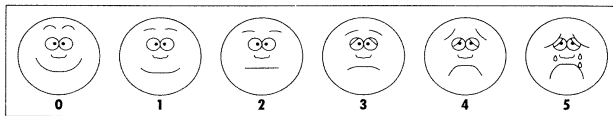
フェイススケール

メリット

- ・簡単に質問できる
- ・子供でも指し示すことが可能

デメリット

- ・顔（絵）の表情の違いが曖昧
- ・痛みがある瞬間に評価することは難しい



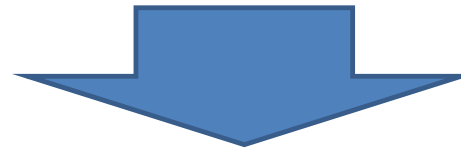
NRS（Numerical Rating Scale）

メリット

- ・数値で評価できる

デメリット

- ・質問する必要がある
- ・痛みを表現出来ない人には適さない
- ・痛みがある瞬間に評価することは難しい
- ・好きな数字・嫌いな数字に左右されることがある



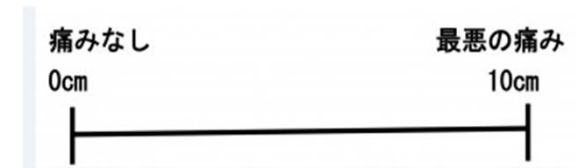
VAS（Visual Analogue Scale）

メリット

- ・連続した数値で評価するため正確

デメリット

- ・メジャーが必要



新しいスケール（客観的疼痛スケール）

OPS

メリット

- ・評価者によって値が変わりにくい
- ・質問する必要がない
- ・リアルタイムに評価できる
- ・何に対して疼痛があったのか正確に評価出来る
- ・医療行為に対して評価が出来る
- ・色で危険度がわかる
- ・痛みを自己評価できる

デメリット

- ・術後疼痛などを評価する場合にはOPS 5を「薬剤追加」等に変更する必要がある
- ・スケールを覚える必要がある

- 0：やすらかな表情
- 1：顔をしかめる
- 2：体動あり
- 3：痛みを訴える
- 4：繰り返し痛みを訴える
- 5：手技継続困難、または吸入・静脈麻酔追加

➤ [Okamura pain scale \(OPS\)](#)

➤ [岡村記念病院](#)